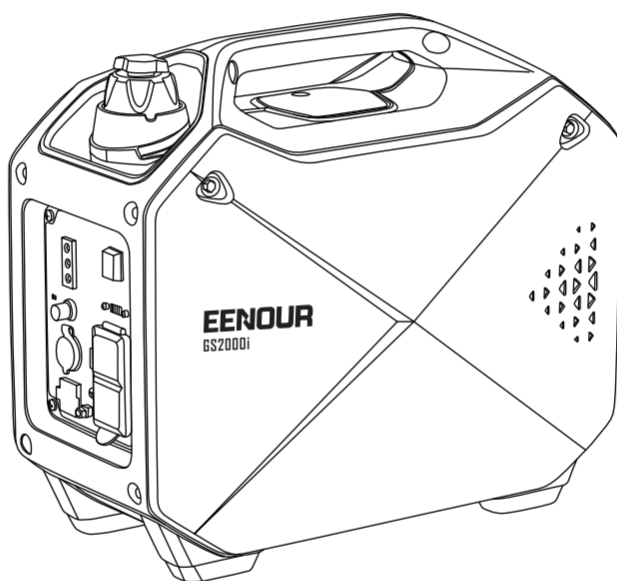


EENOUR



インバーター発電機GS2000i 取扱説明書






はじめに

このたびはEENOURインバーター発電機GS2000iをお買い上げいただき誠にありがとうございます。

安全に正しくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

安全に関する表示について

本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

| | |
|--|---------------------------------|
|  危険 | 人が死亡または重傷などを負う可能性が高いと考えられる内容です。 |
|  警告 | 人が死亡、または重傷などを負う可能性が想定される内容です。 |
|  注意 | 人が損傷を負う可能性および物的損害の発生が想定される内容です。 |
|  禁止 | 取扱においてその行為を禁止します。 |
|  指示 | 指示に基づく行為を強制します。 |

この取扱説明書は、仕様変更等によりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目次

| | |
|---------------|-------|
| 安全にご使用いただくため | 01~02 |
| 各部の名称と取り扱い | 03~06 |
| 運転前の点検 | 07~08 |
| 発電機のかけ方 | 09 |
| 電気の取り出し方 | 10~11 |
| 点検・整備の仕方 | 12~14 |
| 運搬する場合には | 15 |
| 一時保管・長期保管 | 16 |
| 不具合時の対応 | 17 |
| 製品仕様 | 18 |
| 保証期間およびお問い合わせ | 19 |
| 保証書 | 20 |

安全にお使いいただくために

運転、保守、点検の前に必ずこの取扱説明書、および商品本体に貼付されているラベル全てを熟読し、正しくご使用ください。商品の知識、安全の情報そして注意事項の全てに習熟してからご使用ください。

危険

❗ 燃料補給時など燃料取扱時には、火気厳禁

タバコを吸ったり、炎や花火などの火気に近づいたりしないでください。燃料はエンジンを止めてから補給してください。燃料への引火や火災の原因となります。

⊘ 本機付近に障害物や危険物、燃えやすい物を置かない

建物およびその他の設備から1m以上離して設置してください。火災や故障の原因となります。

⊘ 燃料をこぼさない

燃料がこぼれた場合は、きれいに拭き取り、乾かしてからエンジンを始動してください。拭き取った布切れなどは、火災と環境に十分に注意して処分してください。

⊘ 車内、テント内、倉庫など室内および換気の悪い場所では運転しない

エンジンの排気ガスには有害な物質が含まれているため、ガス中毒を起こす原因となります。

⊘ 傾斜地で使用しない

平坦・水平で硬い場所で使用してください。また、運搬時は燃料を抜いてください。燃料タンクキャップやキャブレターから燃料がこぼれ、火災の原因となります。

⊘ 本機の周りにガソリン、または危険物や燃えやすい物を近づけない

本機から出る排気ガスは熱くなります。本機や本機に接続された電気機器に損傷を起こすだけでなく、思わぬ事故を起こす原因となります。

⊘ 電力会社からの電気配線には絶対接続しない

本機や接続の電気機器を故障させたり、火災あるいは人身事故の原因になります。

⊘ 雨の中や水のかかる場所では使用しない

雨や水で濡れた発電機や接続の電気機器を使用したり、また濡れた手で操作すると感電するおそれがあり危険です。

危険

❗ 本機を分解、修理、改造しない

取扱説明書に記載されている以外の分解や修理・改造は絶対に行わないでください。異常動作してけがをする、また本機や本機に接続された電気機器が故障する原因となります。

⊘ エンジンを始動させる前に必ず運転前点検を行う

人身傷害や機械の破損を防止することができます。手や足をはさんだり、思わぬ事故が起きる原因となります。

⊘ 長期保管前には燃料タンクやキャブレター内の燃料を抜き取り、本機を火気や湿気、凍結のおそれのない場所に保管する

抜き取った燃料は火災や爆発の原因となりますので、適切に処理してください。

⊘ 点検や清掃時は必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが使用しないように、点火プラグを取り外す

エンジン停止直後のエンジン本体や排気口などは非常に熱くなっています。やけどをしないように、各部が十分に冷えてから作業を行ってください。

警告

❗ 熱くなっている排気口やエンジン各部をさわらない

やけどの原因となります。

⊘ 本体に直接砂ぼこり、粉じん、煤煙などがかかる場所では使用しない

エンジン部品の早期摩耗の原因となります。始動時や運転中は、高圧コードや点火プラグ、点火プラグキャップに触れない感電の原因となります。

⊘ エンジン部や排気口部が十分に冷えるまで、本機にカバーを掛けない

火災の原因となります。

❗ 使用中に音、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止する取り外す

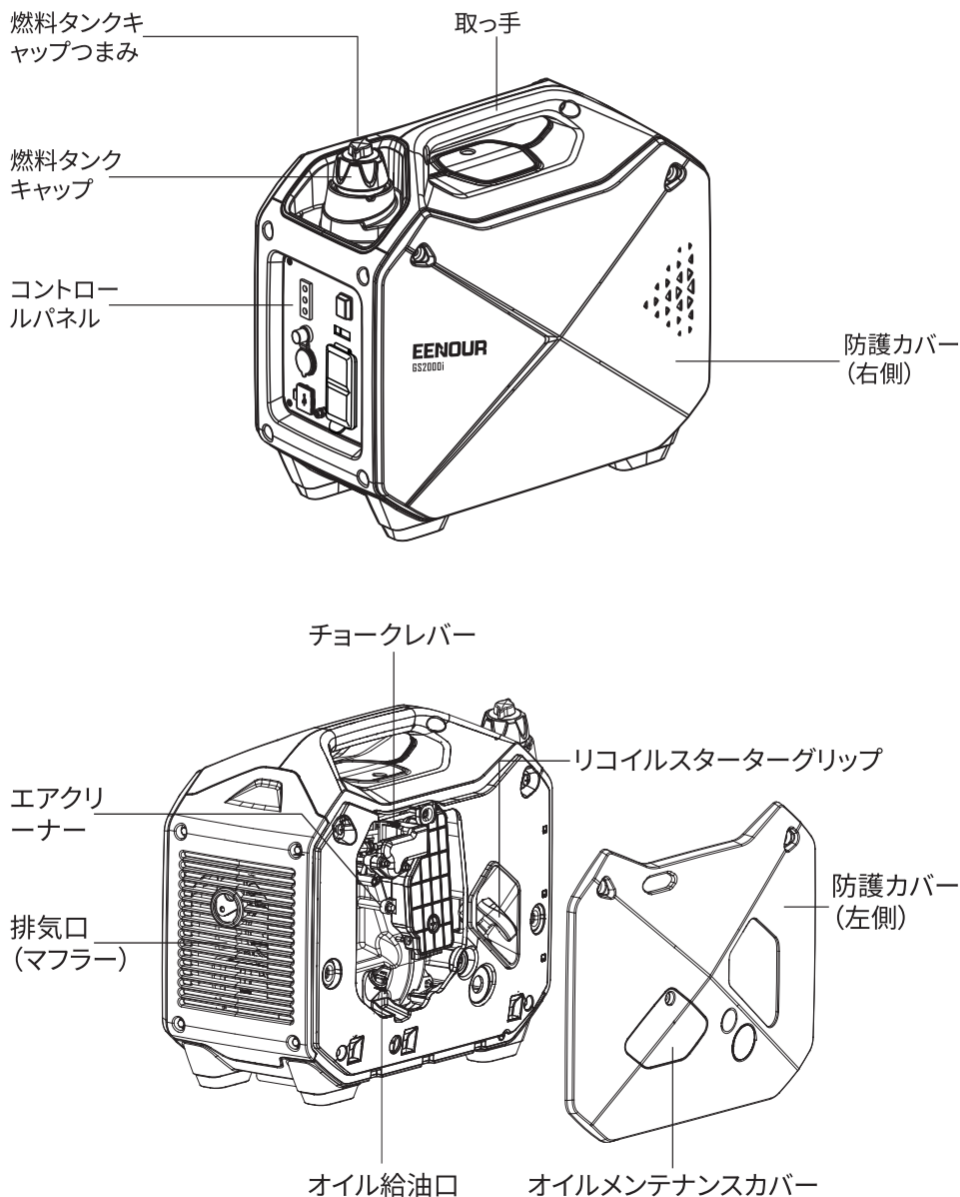
お買い上げ販売店またはサービス店にお申しつけください。燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は、石けんと水で直ちに洗い、衣類は取り替える燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、燃料が目に入ったりした場合には、直ちに医師の診察を受けてください。

❗ 運搬、保管、運転時のいずれも本機が落下、横倒、破損などしないよう水平を保つ

エンジンが故障したり、残っているガソリンがあふれたりする場合があります。特に運搬時には転倒しないようロープなどでしっかり固定してください。

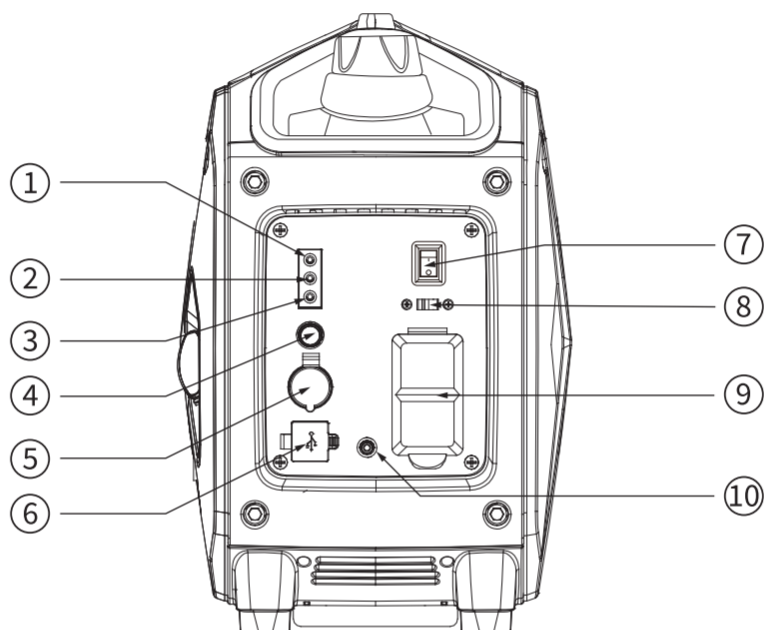
各部の名称と取り扱い

各部の名称



各部の名称と取り扱い

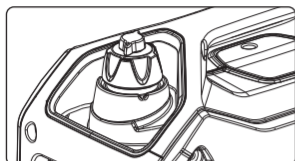
コントロールパネル部



| | | |
|----------|--------------|----------------|
| ①出力表示灯 | ②過負荷警告灯 | ③オイル警告灯 |
| ④DCプロテクタ | ⑤シガーソケット 12V | ⑥USBポート5V |
| ⑦エコスイッチ | ⑧周波数切替スイッチ | ⑨AC出力コンセント100V |
| ⑩アース端子 | | |

各部の名称と取り扱い

各部の取り扱い

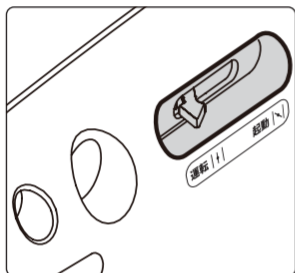


1. 燃料タンクキャップつまみ

燃料タンク内と外気との通気穴の開閉装置です。

本機の運転、停止する時に操作します。

- ON (開) : 発電機運転時
- OFF (閉) : 停止、運転、保管時



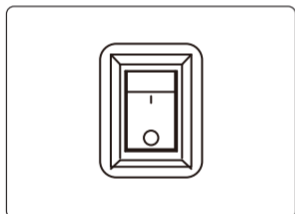
2. チョークレバー

エンジンに入る空気量を調整し、エンジンを始動させる際に使用します。

•起動: 始動に必要なガスと空気量に調合できる位置です。

•運転: エンジンに入る空気量を上げた運転時の位置です。

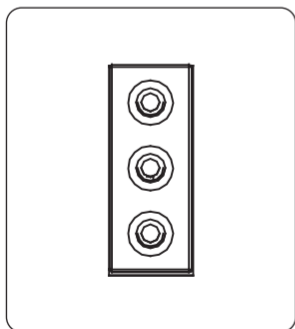
注意: エンジンが冷えている状態からエンジンをかける時は「起動」の位置します。ただしエンジンが暖まった後の再始動時や環境温度が高い時は直接[運転]の位置にします。



3. エコスイッチ

•ON (作動) : エコモードを使用します。電気機器を使用すると自動的にエンジンは電気の使用量に応じたエンジン回転数となり、電気機器を使用しないときは自動的に低速運転になります。燃料消費と騒音を減らします。

•OFF (解除) : エコモードを使用しません。電気機器の使用の有無にかかわらず、エンジンは定格回転で運転します。



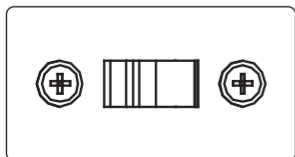
4. 出力表示ランプ

•過負荷警告ランプ・オイル警告ランプ

•出力表示ランプ (緑): 発電が始まると点灯します。インバータが使用可能であることを示します。

•過負荷警告ランプ (赤): 発電中に使用電気機器に異常があった場合や、過負荷のときに出力表示ランプが消え過負荷警告ランプが点灯し、電気が取寄せなくなります。

•オイル警告ランプ (赤): 本機にはオイルが少ない場合に自動的にエンジンが停止するオイルアラート機構が内蔵されています。エンジンオイルが不足し焼付きが起こる前にこの機構が働き、エンジンを停止させオイル警告ランプが点灯します。

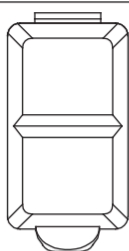


5. 周波数切替スイッチ

周波数の切り替え (50Hz⇔60Hz) を行うスイッチです。

エンジンを始動する前に、接続する電気機器に合わせて周波数を切り替えてください。エンジン運転中に周波数を切り替えることができません。

各部の名称と取り扱い



6.AC出力コンセント 100V

AC出力コンセントから交流100Vの電気機器に給電可能です。
AC出力コンセントで使用する電気機器の合計消費電力が、本機の定格出力以下であることを確認してください。

DC プロテクタ



：“断”
回路が切れる



：“入”
回路が接続する

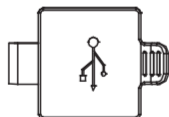
7.DCプロテクタ

シガーソケットの温度がDCプロテクタ(過熱保護装置)に設定された温度を超えた時にDCプロテクタボタンが飛び出して“断”になり、電気が取出せなくなります。接続配線に異常がないか、また電気の取出し過ぎがないか確認してからDCプロテクタを“入”にします。



8.シガーソケット 12V

シガーソケットから車バッテリー、車載冷蔵庫などの直流12Vの車載用電気機器に給電できます。



9.USBポート 5V

USBポートからスマホ、タブレットなど直流5VのUSB機器に充電できます。



10.アース端子

感電防止のアース線を取り付ける端子です。本機に接続する電気機器がアース付きプラグの場合は、本機も必ず接地(アース)してください。

運転前の点検

本機には「燃料」と「エンジンオイル」の2種類が必要です。下記をよくお読みいただき、必ず給油してからご使用ください。

燃料の給油

燃料タンクキャップを外し、燃料を給油します。作業は本機を水平にして行ってください。2回目以降の使用時:中にガソリンが残っていても劣化している恐れがあります。30日に1回、新しいガソリンに交換してください。

使用燃料:

無鉛ガソリン(自動車用レギュラーガソリン)

燃料タンク容量:

3L(赤レベルまで)

燃料給油キャップ



レベル (給油限界位置)



警告



禁止

- ・給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。また、金属部に手を触れるなどして、身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。
- ・エンジンが熱い時は給油しないでください。エンジン停止直後などエンジンが熱い時に給油すると引火のおそれがあります。



指示

- ・給油は、換気の良い場所でエンジンを停止してから行ってください。
- ・燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入ったりした場合は、直ちに医師の診断を受けてください。また燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は石鹸と水で直ちに洗い、衣類は取り替えてください。
- ・必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。

注意



禁止

- ・燃料は規定量以上(ストレナーの赤レベル以上)、給油しないでください。燃料が漏れるおそれがあります。
- ・軽油、灯油や粗悪ガソリンなどを補給したり、不適切な燃料添加剤は使用しないでください。エンジンなどに悪影響を与えます。
- ・古い燃料は使用しないでください。携行缶などで長期保管したガソリンは、エンジン始動不良や故障の原因となります。



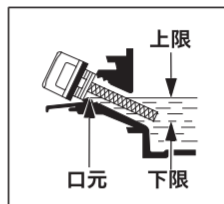
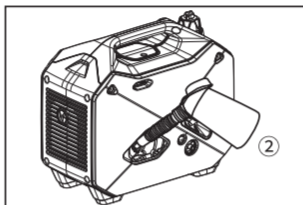
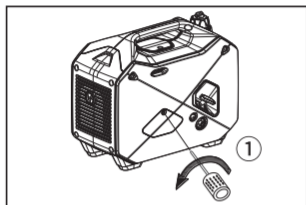
指示

- ・ガソリンは自然劣化しますので30日に1回、定期的に新しいガソリンと入れ替えてください。
- ・燃料の給油時、燃料タンク内に水・雪・氷・ゴミが入らないように注意してください。また、こぼれたときは、直ちに布きれなどで完全にふき取ってください。
- ・ガソリンを一時的に保管・運搬するときは、消防法に適合した携行缶を使用してください。特にペットボトルに保管すると、ガソリン内にペットボトルの成分が溶け出し、エンジンに悪影響を及ぼすおそれがあります。

運転前の点検

エンジンオイルの給油

1. オイルメンテナンスカバー①を取り外します。
2. オイルプラグ②を外して漏斗（ロート）をオイル給油口に差し込み、本機を水平にしてエンジンオイルを規定量給油します。
3. 給油したらオイルプラグを取り付け、確実に締め付けます。オイルメンテナンスカバーを取り付けます。



推奨オイル:

4サイクル用エンジンオイル

SAE10W-30もしくは10W-40API分類SE級以上

エンジンオイル規定量: 0.55L

規定量以上に入れると白煙が出て、出力に影響を与えます。不足の場合、かかった後しばらくすると停止になります。

初回のみ、20時間運転後または1ヶ月後にオイル交換を行ってください。

2回目以降は100時間運転後または6ヶ月後にオイル交換を行ってください。

警告



禁止

- ・給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。また、金属部に手を触れるなどして、身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。
- ・エンジンが熱い時は給油しないでください。エンジン停止直後などエンジンが熱い時に給油すると引火のおそれがあります。



指示

- ・給油は、換気の良い場所でエンジンを停止してから行ってください。
- ・燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入ったりした場合は、直ちに医師の診断を受けてください。また燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は石鹸と水で直ちに洗い、衣類は取り替えてください。
- ・必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。

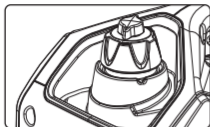
本機周辺の点検

- ・燃えやすい物（特にガソリンやエンジンオイルなど）や危険物は置いていませんか。
- ・周囲に火の気はありませんか。
- ・風通しは良いですか、また換気は十分ですか。
- ・使用場所が小石、土、砂利等で凸凹していたり、やわらかい場所で使用していませんか。やむを得ず使用する場合は、本機の下に板などを敷いて本機を安定させてください。
- ・傾斜地で使用していませんか。
- ・建物および他の設置物から1m以上離れていますか。また、排気口および吸気口は風通しの良い、広い場所に向けてありますか。

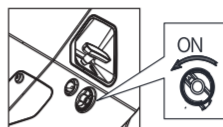
発電機のかけ方

エンジンの起動

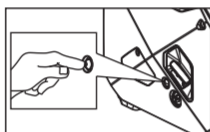
1. 燃料タンクキャップつまみをON(開)にします。



2. エンジンスイッチをONにします。



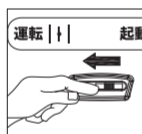
3. 本機を初めて使用する場合、燃料をタンクからキャブレターに送るためには、プラーマーバルブを15回ほど連続して押してください。



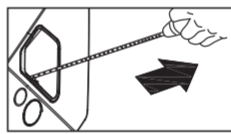
4. チョークレバーを[起動]の位置にします。ただしエンジンが暖まった後の再始動時や環境温度が高い時は直接[運転]の位置にします。



4. リコイルスターターグリップを軽く引き出し、重くなった状態から勢いよく引き、エンジンを起動させます。リコイルスターターグリップは手を添えてゆっくりと元に戻してください。



5. 起動後エンジンの回転が安定したら、チョークレバーを[運転]の位置にします。約3～5分間、無負荷で暖機運転を行なってください。



エンジンの停止

1. 電気器具のスイッチをOFFにします。電気器具のプラグをコンセントから抜きます。

2. エンジンスイッチを[停止]の位置にしてエンジンを停止します。

3. エンジンが十分に冷えてから、燃料タンクキャップつまみをOFF(閉)にします。

警告



禁止

・換気や風通しが不十分で排気ガスがこもる場所ではエンジンを始動しないでください。有害な一酸化炭素がたまって中毒を引き起こす原因となります。

・エンジンを始動する前に電気機器を接続しないでください。

注意



指示

・リコイルスターターグリップは勢いよく引いてください。始動時のエンジン回転が速くなると、点火火花が飛びエンジンがかかります。エンジン回転が遅いとエンジンがかからないことがあります。

・リコイルスターターハンドルを数回引いてエンジンが始動しない時は、20分間ほど発電機を換気性の良い場所に置いて、チョークレバーを[運転]の位置にし、再度起動を試みてください。

電気の取り出し方

AC電源

- 1.周波数切換スイッチを接続する電気機器の周波数に合わせます。
 - 2.発電機に接続する電気機器を大地にアースした場合は、発電機の本体も必ずアースしてください。
 - 3.「発電機のかげかた」に従ってエンジンを始動します。数秒後、出力表示ランプ(緑)が点灯していることを確認します。
 - 4.接続する電気機器のスイッチが切れていることを確認し、ACコンセントへ電気機器のプラグを確実に差込みます。
 - 5.電気機器のスイッチを入れます。正常運転(定格負荷)でご使用の場合は、出力表示ランプ(緑)が点灯し続けます。
 - 6.過負荷運転や使用電気機器が異常を起こした場合は、出力表示灯(緑)が消え、過負荷警告ランプ(赤)が点灯し続け、電気が取出せなくなります。
- この場合、電気機器のプラグを取り外してください。そして、ACリセットスイッチを押してリセットすることで、出力表示ランプ(緑)が点灯し電気の供給が再開されます。

DC電源12V

車載用電気機器に給電する場合：

- 1.「発電機のかげ方」に従ってエンジンを始動します。
- 2.接続する車載用電気機器のスイッチが切れていることを確認し、シガーソケットへ車載用電気機器のプラグを確実に差込みます。
- 3.車載用電気機器のスイッチを入れます。正常運転(定格負荷以内)でご使用の場合は、出力表示ランプ(緑)が点灯し続けます。

車バッテリーに充電する場合：

- 1.シガーソケットにバッテリー充電用コードを接続します。
 - 2.12Vバッテリーにワニ口クリップを接続します。
- 注意：ワニ口クリップの赤が+、黒が-です。+と-の極性を間違いないく接続してください。
- 3.「発電機のかげ方」に従ってエンジンを始動します。
 - 4.正常運転(定格負荷以内)でご使用の場合は、出力表示ランプ(緑)が点灯し続けます。
- 注意：充電時間はバッテリーの放電時間によって異なりますので、比重計でバッテリー液の比重をチェックしながら充電してください。バッテリー液の比重が1.26~1.28になれば充電完了です。

USB電源 5V

- 1.「発電機のかげ方」に従ってエンジンを始動します。
- 2.USB機器のケーブルをUSBポートに差し込みます。

電気の取り出し方

⚠ 警告



禁止

・電力会社からの電気配線には絶対に接続しないでください。火災や人身事故、本機や本機に接続された電気機器が故障する原因となります。

⚠ 注意



禁止

・電気器具の合計負荷（交流、直流の合計）が発電機の取り出し可能範囲を超えた過負荷で使用しないでください。発電機損傷の原因となります。



指示

・精密機器・電子制御機器・パソコン・電子計算機・マイコン付機器および充電器類への使用は、発電機のエンジンノイズ（原動機雑音）の影響を受けない距離を確保してください。また、近くにある他の電気製品がエンジンノイズ（原動機雑音）に影響されないことを確認してください。
・医療機器への使用は、事前に医療機器会社・医師・病院などに確認の上ご使用ください。
・電気工具類・汎用モーター類の一部には、取り出し可能範囲が上記表内の数値内でも起動電流が大きく使用できないことがあります。この場合は電気器具メーカーにご相談ください。
・コンプレッサや水中ポンプなど、起動時に大電流が流れる電気器具を使用したとき、過負荷警告ランプが数秒間点灯する場合がありますが、これは故障ではありません。

点検・整備の仕方

定期点検表

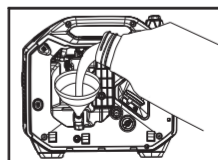
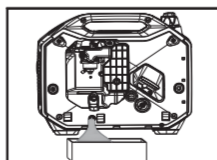
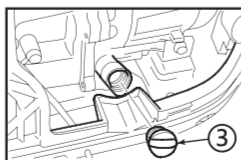
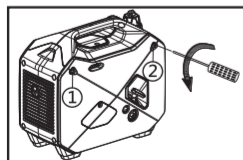
| 対象部品 | 点検項目 | 始業点検 | 初回の1ヶ月後 または 20時間 運転後 | 3ヶ月毎 または 50時間 運転毎 | 6ヶ月毎 または 100時間 運転毎 | 12ヶ月毎 または 200時間 運転毎 |
|-------------|-----------------------|------|-------------------------------|----------------------------|-----------------------------|------------------------------|
| エンジンオイル | ・量の点検 | ● | | | | |
| | ・交換 | | ●※1 | | ● | |
| 燃料 | ・量、漏れの点検 | ● | | | | |
| エアクリーナー | ・損傷、劣化の目視と 指触による点検 | ● | | | | |
| | ・清掃 | | | ●※1 | | |
| 点火プラグ | ・点検と清掃 | | | | ● | |
| | ・交換 | | | | | ● |
| 燃料タンクストレーナー | ・汚れ、詰まりの目視点 検および清掃 | | | | ● | |
| マフラーワイヤネット | ・清掃 | | | | ● | |
| 外装 | ・取り付けボルトのゆる み確認 | | | ● | | |

※1 初回のみ、1ヶ月後または20時間運転後にオイル交換を行ってください。

※2 ほごりの多い場所で作業した場合は、定期点検時期より早めに点検を行ってください。

エンジンオイルの交換

1. エンジンを始動し、2～3分暖気運転をしてから停止します。エンジンオイルが排出しやすくなります。
2. 排出するエンジンオイルを受け取る容器を用意します。
3. 防護カバーを手前に引いて取り外します。
4. オイルプラグ③を外し、付属のエンジンオイル排出用ホースを取り付けます。
5. 発電機本体を傾けてエンジンオイルを抜きます。
6. エンジンオイル排出用ホースを外し、漏斗をオイル給油口に差し込みます。
7. 本機を水平にしてエンジンオイルを規定量給油します。
8. 給油したらオイルプラグを取り付け、確実に締め付けます。保護カバーを取り付けます。

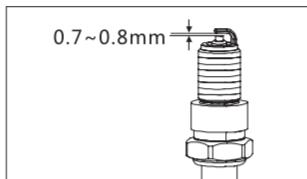
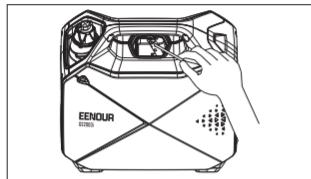


推奨オイル:4サイクル用エンジンオイル SAE10W-30もしくは10W-40API分類SE級以上
エンジンオイル規定量:0.55L

点検・整備の仕方

点火プラグの点検と清掃

1. 点火プラグメンテナンスカバーのネジをゆるめて取外します。
2. 点火プラグキャップを点火プラグより外します。
3. プラグレンチハンドル、プラグレンチで点火プラグを取外します。



4. スパークプラグの焼け具合を点検します。電極付近は通常キツネ色に焼けますが、黒くくすぶっていたり白く焼けていたときはパーツクリーナーまたはワイヤーブラシで汚れ(カーボン)を落とします。
5. 電極のすき間を確認し、下記寸法になっていない場合は調整します。
指定点火プラグ: A5RTC (TORCH)/CR5HSB (NGK)
電極のすき間: 0.7~0.8mm
6. 取り付けはまず手で一杯までねじ込み、次にプラグレンチで確実に締付けます。
7. 点火プラグキャップを点火プラグに確実に取付けます。
8. 点火プラグメンテナンスカバーを取付けます。

⚠ 注意

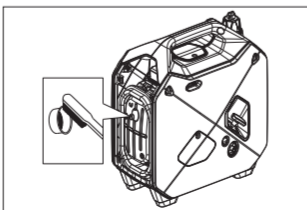
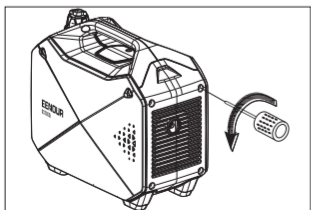


指示

・やけどをしないよう、作業はエンジンが冷えてから行ってください。エンジン停止直後のエンジン本体やマフラー、点火プラグなどは非常に熱くなっています。

マフラーキャップの清掃

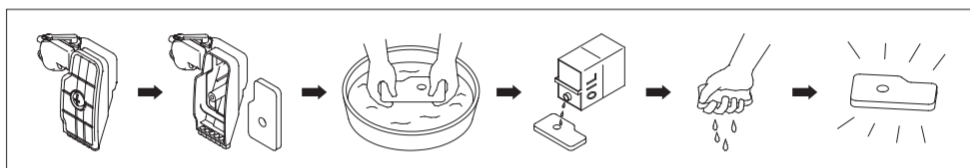
1. マフラーカバーのボルト(4カ所)をゆるめて取り外します。
2. マフラーキャップを取り外します。
3. ワイヤーブラシ(市販品)を使用してマフラーキャップの汚れを取り除きます。
4. マフラーキャップを取付けます。
5. マフラーカバーとボルトを元に戻します。



点検・整備の仕方

エアクリーナエレメントの清掃

1. 左側の防護カバー上部のネジ (2カ所) をゆるめて、手前に引いて取り外します。
2. スクリュをゆるめて、エレメント (空気ろ過部) を取り外します。
3. きれいな灯油でエレメントを洗浄します。洗浄後、エレメントを布で包み押しつぶすようにしぼります。
4. エレメントをエンジンオイルにひたし、押しつぶすようにしぼります。オイルが垂れない程度に余分なオイルを取り除いてください。
5. エレメントをエアクリーナ本体にはめ込みます。エアクリーナカバーを元の位置に戻し、スクリュを締め付けます。
6. 左側の防護カバーを取り付けます。



⚠ 警告



禁止

・洗った油は引火しやすいので、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。火災の原因になります。

⚠ 注意



禁止



・エレメントは絶対にきつく絞らないでください。破れてエンジンが不調になることがあります。

・エレメントを取り付けていない状態でエンジンを絶対に始動させないでください。ピストンやシリンダーの摩耗の原因になります。



指示

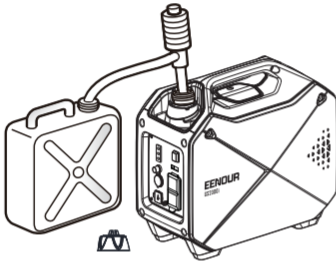
・エアクリーナーが目詰まりすると出力不足や燃料消費が多くなるので、ほこりの多い場所で使用した場合は、定期点検時期より早めに清掃してください。

運搬する場合には

発電機を自動車・トラックなどの車両で運搬する場合は、以下を必ず守ってください。

運搬の場合

1. 発電機を停止の状態にします。
2. エンジンが十分に冷えてから、燃料タンクキャップつまみを「OFF」の位置にします。
3. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り外し、市販の手動式ガソリン用ポンプを使用して燃料を抜きます。なお、電動式ポンプは使用しないでください。



4. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り付けます。
5. 本機が落下、転倒、破損などしないような場所を選んで積載し、ロープなどでしっかり固定します。

警告



禁止

- 振動、衝撃などで燃料タンクの燃料がこぼれるおそれがありますので、燃料タンクに燃料を給油したまま運搬しないでください。
- 燃料が気化して引火するおそれがありますので、発電機を車内やトランクなどに積載したまま、長い時間直射日光の当たる場所に放置しないでください。
- 火災のおそれあり、車両に積載したまま使用しないでください。
- 発電機の上に重い物を置かないでください。



指示

- 火災のおそれがありますので、予備の燃料は消防法に適合した鉄製の携帯タンクに保管してください。
- 本機が移動、横倒、落下、破損などしないような位置に積載してください。特に横倒したまま運搬すると、エンジンがかからなくなるなど、エンジン故障の原因となります。

一時保管・長期保管

使用後または定期運転後、次の使用が3ヶ月以降になる場合は「一時保管」を、それ以上長期に渡って使用しない場合は「長期保管」を行ってください。これを行わないと、故障の原因となります。

一時保管の場合

1. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り外し、市販の手動式ガソリン用ポンプを使用して燃料を抜きます。なお、電動式ポンプは使用しないでください。



2. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り付けます。
3. 燃料タンク内のガソリンを抜いた後、発電機を起動します。(10ページ参照)
4. 無負荷運転(電気機器は接続しない)を行ってです。エンジンが「ガス欠状態」で停止するまで待ちます。燃料タンク内の燃料残量によって「ガス欠状態」になるまでの時間は変わります。
5. エンジンが停止しましたら、右側の防護カバーのネジをゆるめて、防護カバーを取り外します。
6. 排出するガソリンを受ける容器を用意します。
7. キャブレターのドレンパイプを容器で受け、ドレンネジをドライバーで弛め燃料を抜きます。キャブレター内のガソリンを抜かず長期放置すると、ガソリンが変質しエンジンがかかなくなる場合があります。



8. ドレンネジを締め付け、ドレンパイプを元に戻します。
9. 防護カバーを取り付けて、ネジを確実に締め付けます。
10. マルチスイッチを「停止」の位置にし、燃料タンクキャップつまみを「OFF」の位置にします。
11. 室内で湿気が少なく換気の良い場所に保管します。

長期保管の場合

1. “一時保管”の1～10の作業を行います。
2. 点火プラグを外し、プラグ孔からエンジンオイルを3～5mL給油します。
3. リコイルスターターグリップを2～3回ゆっくりと引いた後、点火プラグを取り付けます。
4. リコイルスターターグリップを引き、重くなった状態(圧縮状態)にします。
5. 各部の水、ほこりなどの汚れをきれいに清掃します。
6. 発電機にカバーを掛け、室内で湿気が少なく換気の良い場所に保管します。

不具合時の対応

故障は行き届いた点検整備により未然に防ぐことができます。故障の多くは、取扱いの不慣れや不十分な点検に起因しています。まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常がある場合はむやみに分解しないで、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

| 症状 | 考えられる原因 | 処置 | 参照ページ |
|------------------------|---|------------------------|---------------|
| エンジンが 始動しない | 燃料が入っていない | 燃料を給油する | 7ページ |
| | オイル警告ランプ(赤)が点灯している →エンジンオイルが入っていない、量が少ない | エンジンオイルを給油する | 8ページ |
| | 燃料タンクキャップつまみがOFFになっている | ONにする | 9ページ |
| | エンジンのかけ方に不足などがある | 正しいかけ方を再確認する | 13ページ |
| | チョークレバーの位置調整 | エンジンが温まっている場合や夏期は「運転」 | 10ページ |
| | | エンジンが冷えている場合や冬期は「始動」 | 10ページ |
| | エアクリーナーの汚れ | エアクリーナーの清掃 | 14ページ |
| | 点火プラグがぶり、汚れ、破損 | 点検・清掃・交換 | 13ページ |
| | 本機が傾いている → オイルアラート機構の作動 | 水平にする | 9ページ |
| エンジンが 数分動いた 後止まる | 問題のある燃料、エンジンオイルによるエンジン不調 | 正しい燃料・エンジンオイルに入れ替え | 8ページ 12ページ |
| | チョークレバーの位置調整 | 起動後、マルチスイッチを「運転」の位置に戻す | 9ページ |
| | 暖気運転が足りない | 暖気運転を行う | 10ページ |
| | 複数の電気機器を使用するなど急に大きな電気を取り出した | 電気を少しずつ取り出す | / |
| | 点火プラグの劣化 | 点火プラグの点検・交換 | 13ページ |
| マフラーから 白煙が出る | キャブレターが詰まっている | キャブレターの清掃 | / |
| | エンジンオイルの入れ過ぎ | エンジンオイルを排出して規定量を注入する | 12ページ |
| 電気が取り 出せない | SA級など、指定以外のエンジンオイルを使用する | 指定のエンジンオイルを使用する | 8ページ |
| | 過負荷警告ランプ(赤)が点灯・点滅、出力ランプが消灯する | 過負荷の原因または使用器具の異常を改善する | 5ページ |
| | 水中ポンプ、コンプレッサーなど、起動時に大電流が流れる電気機器を使用 | エコモードをOFFにする | 5ページ |
| 電気が取り 出せない | シートをかぶせている、または屋内で使用するなどして本機の温度が高くなっている | 本機周辺を点検する、または屋外で使用する | 9ページ |

製品仕様

| 品番 | | GS2000i |
|------|----------------|-----------------------|
| 発電機 | タイプ | インバーター発電機 |
| | AC出力 | 100V |
| | 周波数 | 50/60Hz |
| | 最大出力 | 1.8 kW |
| | 定格出力 | 1.6 kW |
| | 力率 | 1.0 |
| | DC出力 | 12V / 4.0A 5V/1A 2.1A |
| エンジン | 型番 | XY148F |
| | タイプ | 空冷式・4 サイクルエンジン・OHV |
| | ボア*ストローク mm*mm | 48.6×43 mm |
| | 排気量 | 79.7 cc |
| | 最大出力 | 2.3KW / 5500rpm |
| | 燃料 | 無鉛ガソリン |
| | 燃料タンク容量 | 3.0L |
| | 連続運転時間 | 2hr50min |
| | オイル | SAE 10W30 |
| | オイルタンク容量 | 0.55L |
| | スタート方式 | リコイルスタート |
| | 点火方式 | C.D.I. |
| | プラグタイプ | A5RTC (TORCH) |
| サイズ | 製品サイズ | 473×263×413 mm |
| | 梱包サイズ | 510×300×440 mm |
| | 正味重量 | 16.0 Kg |
| | 総重量 | 17.5 Kg |

※仕様は予告なしに変更される場合があります。

保証期間およびお問い合わせ

- ・本製品の保証期間はご購入より一年間となります。
- ・本製品の仕様は予告なしに変更する場合があります。予めご了承ください。
- ・本製品は使用電子部品の製造中止で、生産及び販売終了となる場合があります。予めご了承ください。
- ・お問い合わせの際、お客様へ確実に迅速に対応させていただくため、あらかじめ下記の事項をご確認の上、ご連絡ください。

①商品名

②ご購入先及びご注文番号

③故障の状況(できるだけ詳しくご説明ください。メールでお問い合わせいただいた場合は不具合症状に関する写真または動画を添付いただけると幸いです。)

・ご不明な点や故障に関するご相談は、ご購入の販売店、または下記営業窓口にお問い合わせください。

④本体の上部に貼られているバーコードラベルで載っている製造番号

メールアドレス



support@eenour.com

お電話番号



045-550-7405

受付時間:10:00-13:00、14:30-18:30

(土・日曜、祝祭日・年末年始および当社指定休業日は除く)

保証書

本保証書は再発行いたしません。大切に保管してください。

保証書

| | |
|-------|---|
| 品 名 | EENOURインバーター発電機 |
| 品 番 | GS2000i |
| 購 入 日 | 年 月 日 |
| 保証期間 | 上記ご購入日より1年間（消耗品を除く） |
| お 客 様 | ご住所 〒 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> - <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> |
| | 電 話 () |
| | お名前 ----- 様 |

1. 取扱説明書、注意事項などにしたがって正常な使用状態で故障した場合に限ります。
2. 保証期間内に前項に該当する故障が発生した場合に限ります。
3. 消耗品に関しましては、保証対象外となります。
4. 保証期間内でも次の場合は、有料修理となります。
 - * 本書のご提示がない場合や、購入日、販売店名の記載がない場合。
 - * 使用上の誤り、他店・個人での修理、分解、改造、調整による故障等。
 - * お買い上げ後の移動、落下、天災地変、異常電圧による故障。
5. 保証書の発行により、ご購入者の法律上の権利を制限するものではありません。

免責事項

法律上の請求の原因の種類を問わずいかなる場合においても、本製品の使用または、使用不能から生ずる直接損害、間接損害（事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失等）、特別損害、付随的損害、経済的拡大被害（逸失した利益、ビジネス上の収益、信用あるいは節約すべきし費用を含む）、他の機器や部品に対するデータの損失または損害、第三者からの賠償請求に基づく損害、身体障害（身体障害に起因する死亡及び怪我を含む）に関して、弊社は一切の責任を負わないものとさせていただきます。

✉ E-mail: support@eenour.com

